

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 株式会社さくらコミュニティサービス.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

満快のふる郷さくら千歳では、ホームの理念「六つの誓い」とホームのビジョン「新3K(感謝・感動・架け橋)を実感できる職場」を掲げ日々入居者様の支援に取り組んでいます。
1. 人生の大先輩に対して、尊敬と敬意をはらい、生きていくお手伝いを心からさせていただきます。
2. 一人ひとりの主体性を尊重し、真剣に向き合ったケアを行います。
3. 一瞬一瞬が、その方にとってかけがえのない人生であるから、今この時を大切にします。
4. 残された力を見出し、真の喜びと自信が持てる生活の実現を目指します。
5. 自由にその方らしく過ごしていただくために、言葉や行動による抑制は一切いたしません。
6. 地域の一員として、積極的に地域と交流し、理解を深めていただくための架け橋となります。
「新3K」感謝 毎日の暮らしの中で、お互いが相手を思いやり支え合う『心からのありがとう』感動 共に生活し、いくつもの季節を過ごす中で、新たな発見や感動、喜びを『一緒に感じる』架け橋 今までの人生で大切にしている人達、これからの人生で出会う人達『人と人、思いと想いを繋ぐ架け橋』

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0171100209-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム満快のふる郷さくら千歳」は、JR長都駅から車で5分程の新興住宅街に位置する2ユニットの事業所で、近くには幼稚園、小学校、商店、公園等が点在し恵まれた生活環境にある。開設から14年を経過し、事業所理念である「六つの誓い」に沿った認知症ケアを基礎とし、職員は、利用者が生活の主体となるケアサービスに努めている。事業所は、より専門性の高いケアを提供する為の職員育成に力を注ぎ、職員は常に話し合い、現状で何が出来るかを模索しながら、チームケアで利用者の暮らしの支援に取り組んでいる。介護計画作成の過程では、その人らしい生活の維持や継続に繋がるアセスメント、モニタリングを詳細に行い、ケアの実践では、職員業務の仕組みを工夫した、週間タイムスケジュール表を活用し、職員の機能的動作でサービスの充実が図られている。更に、ユニットに関係なく互いに連携を図り、全職員で利用者を見守る等、安心して暮らせるケアを提供している。ホーム長は、終の棲家として家族と共に利用者を支えていける環境作りを努めたいと考え、職員の意見や提案に耳を傾けながら、事業所の更なる向上を目指し日々意欲的に取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation results for various service items.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に「六つの誓い」を唱和し、職員は常に入居者様の支援に「六つの誓い」を取り入れ支援し実践しています。また、新3K(感謝・感動・架け橋)を実感できる職場を目指しています。	系列4事業所共通の理念である「六つの誓い」を毎朝唱和し、サービス提供場面で理念が反映出来る様に職員間で確認している。理念はパンフレットや事業所内に掲示し、新人研修時にも理念の意義を説明し、理解と共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事、地域の催しや北陽小学校社会教育授業及び学校行事の参加など地域交流を行っています。	傾聴ボランティアや課外授業での小学生の訪問は利用者の楽しみ事となっている。町内会行事にも参加して人々との触れ合いや交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校のボランティア活動の場としてホームを提供し、認知症についての情報を提供したり、入居者様と触れ合って頂く事で、認知症に関心を持つきっかけとなっています。今後も取り組みを継続していきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し、ユニットの状況報告、情報公表、意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています。また御家族や入居者様も参加し意見を述べて頂き、出た意見はホームで検討しサービス向上に努めています。	年6回の開催に尽力しており、サービス提供の実際や事業所の実情について報告し、メンバー間でのモニタリング、意見交換の中で、双方向的な協議が持たれ、要望や提案は検討し運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やボランティア活動の協力等、地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員の方と連絡を取り合い協力関係を築くように取り組んでいます。	市の担当者とは情報の交換に努め、個別の案件についてはその都度、協議しながら対応し、協働関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議の場で協力を得てサービス向上に共に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に添い、拘束をしないケアを行っています。都度ユニットで入居者様の状態に合わせた適切なケアが実践出来るよう話し合い、ケアの統一を目指しています。	身体拘束をしないケアの実践を理念に掲げており、職員は理念の唱和や勉強会での学びを重ねて、理解を深めている。対応が気になる場面では注意を促している。玄関は夜間のみ施錠し、日中はチャイムで見守り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し、内容は職員全体に回覧し情報の共有をし虐待防止に努めている。また小さな気付きも報告しあっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内容を少しでも理解して貰う為に勉強会を開催し説明や補足を行い適時に伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際に詳しく説明を行い不安や疑問に関する理解・納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット入口に意見箱を設置したり、御家族様の来訪時には意見要望を頂いています。また在所発送時に気になる事があれば記入できる用紙を同封し職員全員で意見を共有し運営に反映出来るよう努めています。	家族には、通常の訪問の他に事業所行事にも参加頂き、実際のサービスに触れ、感じ取れる機会を設ける等、表出し易い雰囲気や常に心掛けています。更に、在所発行時にも意見や不満、要望等を記入できる用紙及び封筒を同封し、サービスの改善を事業所全体で取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム責任者より個人面談や、各ユニット会議・全体会議で提案する場を設け、意見の交換を行い反映しています。	各ユニット会議や全体会議では課題解決に向けて職員が共に話し合う姿勢で臨んでいる。具体的事例として、職員が機能的に行動するために、週間タイムスケジュール表を作成し、ケアの充実に活かされている。年1度、ホーム長による個人面談も実施され、職場環境向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を基に個々に目標を設定し管理者との面談で意見交換を行い、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の向上に向け取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修に参加し、新人職員にOJTなどを通して働きながら学べる環境を作っています。またキャリア段階の評価を活用しケアの統一に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内地域密着型事業所で構成した「絆会」を通じて、合同「大運動会」や研修、講座に積極的に参加し、交流しながら向上していけるよう努めています。今年度は人員不足の為不参加でした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居する際には、相手先に足を運び細かな情報収集を行っています。面会を重ねることで本人の思いを傾聴し、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を一つ一つ丁寧に伺い、現状や要望を捉え、一緒に最善策について話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つ一つ細かな情報収集を行い、ニーズを見極めながら職員全員で入居検討をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や買い物、作業を行いながら、入居者様が職員と共に生活しているという実感を持って頂ける様、努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から積極的にご家族様とコミュニケーションを取るよう心がけています。関係作りを密にし、連絡を取り合うことで入居者様と架け橋となり、協力して頂ける方に、行事参加をして頂ける様、働き掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や場所をご家族様やご本人様からお聞きし、電話でお話ししたり友人が来訪されたりしています。	友人、知人、家族に電話をかける、訪問して貰うなど、馴染みの人との繋がりが継続できる様に、取り持つ事を大事に支援している。花見などのドライブを個別の対応で職員が同行している。家族の協力で馴染みの病院への受診や美容室訪問も継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士が過ごせる環境作りをホーム、ユニット内で行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去された方へは、お見舞いに伺い、その後の受け入れ先等の相談を行っています。また足を運んで頂ける様ホームの行事にお誘いする等、関係の継続に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成の際や、都度本人の意向を伺っている。困難な場合は、その方の状態やご家族と相談し意向に反映しています。	家族からの情報と利用者の生活歴を考慮しながら、その人らしさを、生活を共にする中で把握し、蓄積した内容を検討して、アセスメントの充実を図り、本人の希望や意向に沿える支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを基にこれまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式で得た情報を基に、生活歴や性格、現在の様子・状態、能力など入居者様の現状を把握する様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に入居者様やご家族様とコミュニケーションをし、パートナー間では情報交換を行い、課題と方策を会議で検討し、思いを叶えるため支援を介護計画として立案しています。	利用者の担当職員が定期的にモニタリングを行い、本人、家族の意見、希望を取り入れ、介護支援専門員と共に新たなケアプラン作成や見直しに取り組んでいる。職員は毎月の会議で話し合い、情報を共有し、ケアの統一や確認が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や介護計画評価表を用いて実践できているか確認を行い見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医や看護師による健康管理やホーム内で出来る簡単なリハビリ支援、外出等入居者様の思いを叶えるため支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族をイベントへお誘いし、参加して頂いており、避難訓練も民生委員や町内の方と一緒にこなっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診、24時間相談、看護師による健康管理等医療連携体制が整っています。以前から継続している病院がある方は、そちらに受診し主治医に報告しています。	殆どの利用者は協力医療機関の往診を利用している。協力医療機関とは日常的に相談が可能な関係が構築されており、24時間の医療連携体制が整備されている。訪問看護師による健康管理体制も整えている。かかりつけ医の受診は基本家族対応となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、又は訪問看護師にアドバイスを貰い 入居者様の状態に合わせ、受診や看護を受けることができるよう支援しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院関係者と情報交換や主治医 から病状説明に同席し、情報収集を行う中で関係構築を図っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医による往診、24時間相談、看護師による健康管理等医療連携体制が整っています。以前から継続している病院がある方は、そちらに受診し主治医に報告しています。	入居時に、重度化・終末期における対応指針を説明し同意を得ている。本人、家族の意向に基づき、状況変化に応じて家族、主治医を交えた段階的な話し合いを行い、合意を得て、看取り支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命・救急に関する対応を会議等で学ぶ機会を設け、全職員が対応できるよう、緊急救急・防災マニュアルを設置し備えています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており、地域の方や、ご家族に参加を呼びかけ、訓練の協力や、改善に向けての意見交換などの取り組みを行なっています。	消防署の立ち合いの下に、年2回、夜間想定での消火、避難訓練を実施している。地域住民や家族の参加を得て実践的な訓練を行い、指導や助言を次回に活かす様に取り組んでいる。水、食料の備蓄は確保している。	自然災害(地震・台風・風雪害・停電・断水)などにおける具体的な対策の検討や訓練の実施に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーや羞恥心に配慮した 声掛けを行い、言葉遣いや、マナーに注意して 対応を行っています。	利用者の尊厳について理念に位置付け、事業所全体で認識し、職員は意識を持って支援に当たっている。マナー研修を受けた職員による伝達研修で全職員が学びを共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた方法で接し、常に入居者様希望に添えるよう心がけています。添えない場合謝罪した上で納得行く別対策を検討しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様ペースに合わせて極力希望に添える様に支援し、週間予定に組み込む等、時間確保を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に好みに合わせた衣類や、身の回り品の購入への支援や、日常生活の中で身だしなみやおしゃれを意識できるように支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に味噌汁を調理して頂いたり味見をして頂いたり、食事中も会話をしながら楽しんで頂けるよう配慮されています。	平日の昼・夜食は配食業者を利用し、朝食と土・日の食事はユニット毎に職員が利用者の希望を盛り込んで調理している。食事介助が多くなっているが、職員も努めて食事を共にしている。食事形態も利用者に合わせて、また、誕生会や行事食、ベランダでの昼食を取り入れる等、食事に変化をつけ工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを調整しており、塩分の調整や、一人ひとりに合わせた食事量を提供している。水分もゼリーなどの提供も合わせ摂取量を確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり状態に合わせて対応し、毎食後口腔ケアと義歯洗浄を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンをある程度把握した上で、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っています。状況に応じて適時トイレへご案内する事で、排泄失敗を減らすよう努力をしています。	排泄が自立している利用者もいるが、羞恥心に配慮しながら全員の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間帯のオムツ使用に関しては、排泄のアセスメントをきめ細かく行う等して、オムツの見直しを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維多い物を提供するよう心がけ、牛乳やヨーグルト、青汁などを毎日提供しています。体操や腹部マッサージなどを行ない下剤調整を都度、看護師と相談しながら行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自ら入浴希望を訴える方少ない為、入浴声掛け職員より行っていますが、曜日や時間取り決めなく、入居者様状態に合わせています。拒否が強い方に時間をずらしたりと、一人ひとり状況に合わせて配慮をしています。	入浴時間の取り決めは無く、利用者の体調に配慮しながら、職員は入浴を促しているが、積極的に入浴を希望する利用者は少ない。拒む場合はタイミングを図りながら、利用者の気持ちに沿った対応をしている。異性介助は利用者、家族の同意を得て行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて臥床や、ソファなどで休息して頂ける様支援している。居室の明るさや、物音に配慮し、入居者様の思いを傾聴する等、利用者が落ち着いて安眠できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬目的や副作用等記録や申し送りノート活用により全職員に周知されています。又、薬局から薬剤情報書をファイルし、すぐに確認出来る様ファイルし常にキッチンに置かれています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様出来る事や好きな事を把握し、役割ある暮らし、自立へ支援や楽しみ促しに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や日光浴を行い一人ひとりに合った好きな食べ物や場所を伺い外出支援を行っています。	職員の配置が厳しく、全員での外出は難しい状況ではあるが、個別支援でドライブや花見に出かけている。天候の良い日は、玄関前の花壇への水遣りやベランダでの日光浴で気分転換を図っている。家族の協力の下に、自宅帰省や墓参り、受診、美容室等にも出かけて、外部との交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ち金を持たれている方は、外出支援時に買い物有無に関わらず所持促しや買い物ができる環境作りに努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望時に電話をして頂ける様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽が入り明るく広いリビングに季節を感じて頂ける様にクリスマスツリーや雛人形などを飾り、楽しみ、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	ゆったりとした玄関ホールには民芸家具を配置して、図書も設置され、来訪者や利用者の憩いの場として活用されている。2階の踊り場にも民芸品や木製のベンチが備えられており、寛げる空間となっている。各ユニットのリビングは広々として日当たりも良好で開放感がある。壁には、理念を掲示し、利用者の写真や季節の飾りが施され、家庭的で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大勢で座れる団欒の場や、独立したソファやテーブルもあり、思い思いの場所で過ごせる工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、長年慣れ親しんだ家具や、ご家族様の写真を飾られたり、入居者が居心地良く過ごせるよう工夫をしています。	居室入口に利用者の個性が覗える、希望の言葉が書かれた額を飾っている。居室には洗面台が設置され、利用者それぞれに馴染みの家具や仏壇など持ち込み、壁には絵やカレンダー、時計等も飾り、大切な家族写真も傍に置き、その人らしい居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器を使用して移動もできる様、十分なスペースが確保されています。手摺りもほぼ全域に設置されており、つたい歩きが出来る様配慮されています。		